

談に加はれり、福原堀留署長は豫定の如く兩氏を拉し、棚橋氏を約五分時留置場に入れしが、直に麻生氏と共に署長室に招き入れ、歳末多事の日市中を騒がすの穩かならざるを説き、堀留署長として管内に其事あるは心安からざれば明日以後の示威行列は斷じて中止するか如何、若し中止せずとせば、此儘檢束の上斷乎たる處置を取るべき事、署長として居中調停に出づべきにあらねども、三越幹部に對して先刻戒告を與へたるに誠意を以て罷業者總代と會見すべしと答へたれば友愛會も亦然かする意嚮なきやと訊しれり。

麻生、棚橋兩氏亦事を好むにあらず、亦友愛會を名乗りて正面より事件解決の途なきを知れば渡りに舟の感あり、即ち明日以後暫く示威運動を見合はすべきこと、職工代表と三越幹部との會見は一般に圖るの必要あれば即答し難きも盡力すべしと言葉を番へて八時辭去し、わざ／＼途中に時を費し九時半松本亭に到りしに既に解散の後なりき。

罷工者一同卅日早朝三越本店よりの速達便を手にしたり、此速達は身許保證金及工賃は取揃へあり會計簿の整理上速に受取られたしと云ふにありしが、技工一同は相談したる結果、金を以て技工を招き個々に説得して結束を紊さん策戰なるべしとて受取りに赴くことなかりき。

▲卅日の示威運動

卅日再び示威運動あり、洋服技工組合員は一人も出でず、立憲労働黨員と府下吾妻町足立製作所職工九十名の混合せる一隊にて、足立製作所職工は泉忠之を指揮し前日に勝りて激しく遂に食堂まで練り廻り脅威を與ふること甚しかりき、其日店内に於て檢束されしもの廿二名、其内に市社會局囑抵町田辰治郎氏の混ぜしは滑稽なりしが、友愛會會計松岡駒吉氏も亦檢束されたり、同氏を檢束せんとする方針は廿九日に定まれるも同日は遂に機を逸せりと一巡查は語れり、茲に他事ながら注目すべきは此日の主謀者にして而も堀留署が遂に檢束するを得ざりし泉忠は一月十二日足立製作所の機械全部を破壊したる首盟なり。

▲覺書に到るまで

卅日早朝、罷工團は會議の結果署長の意の如く重役と會見するに決し十時其旨を署長に通じ先づ堀留署に出頭したり、委員は藤本、咲本、坂口、福良、溝畑の五名にして署長は懇に妥協を勸告するところあり、三越に對する讓歩は諸君として不満足ならんも社會の安寧を重んずるための社會奉仕と思はば、腹も立つまじとまで妥協を勸告したり、委員一同は堀留署を辭去後三越に到り四階にて幾戸氏と會見三時間にして幾戸氏は

要求一 身許保證金の件承認